



## 総合内科、内科系救急志望者は、是非当院に！！

広島市民病院救急科は 2006年北米型 ER 方式として開設された。2012年には、いわゆる「たらい回し」減少のため当院は救急コントロール機能病院となり、救急外来の拡充を行い初療室2床・診察室5室・観察室13床となった。2019年度は総勢12名（救急科専門医8名、感染症専門医1名）体制である。



業務内容は主に15歳以上の成人を対象に、徒歩来院患者からCPAまで初療・診断を行い、入院が必要なら適切な診療科に振り分けることである。初期救急から三次救急までの幅広い病態の患者が対象であり、迅速な判断・対応・処置を学ぶことができる。

また、DMAT隊員を4名有し多数傷病者発生事案を日常から経験することで、災害時の対応（当院は災害拠点病院）を学ぶことができる。救急科の勤務は、完全3交替制で外来に特化しており、入院患者は担当しないが希望があれば、救命救急センターにて病棟管理も可能である。

### 【当直体制】

**一般病院当直:**内科・外科系・小児科

**総合周産期母子医療センター当直:**婦人科・新生児科

**ICU(10床)当直:**麻酔・集中治療科3人心臓血管外科

**救命救急センター(26床)当直:**循環器内科・脳神経系（脳外・神内）



全診療科365日on call。十分なバックアップ体制がとられている。

2018度の実績は、総受診者数約30,888人、救急車受入数6,878台で共に広島県内最多である。大半は内因性疾患で占められており広島市の時間外受診内因性疾患の約9割が当科を受診している。「外傷はちょっと苦手」という内科系救急志望者や、総合内科志望者にはもってこいの診療科である。